

## 18 周防大島の文化財

### 松尾寺の二天王立像（三蒲）

松尾寺に伝わる四天王像のうち持国天・増長天の2像が県指定文化財となっている。四天王は仏法を守護する護法神で、多聞天・広目天・持国天・増長天がそれぞれ四方の守護にあたる。そのなかで持国天は東、増長天は南を守護する。四天王像は須弥壇上の四隅に本尊を囲む形で配置されることが多く、顔に怒りをたたえ中国風の鎧を身につけた武将の姿で表され、なかでも持国天と増長天は刀や矛などの武器を携えた形をとることが多い。

松尾寺の二天王立像は両像とも平安時代の後期の作品で、桧材を用いた一木造りである。持国天は像高80cm、左手を腰に当て、右手は振り上げて持物を持つ形をとる。増長天は像高80.5cmで左手を上にあげて持物をとる形を作り、右手は拳を握る形で腰に当てている。ともに持物は欠失している。

松尾寺は現在臨済宗であるが、平安時代の承平6年（936年）に弘法大師の弟子である基燈法師によって創建された伝承を持ち、当初は真言寺院であった。室町時代初期に大内弘世が周防国観音巡拝三十三カ所の札所を選んだ際、第3番の札所に指定されている。

〈周防大島町文化財保護審議会委員 中野行真〉



1月号で少しご紹介しました、周防大島くらし体験ネットワーク事務局で開催している「島のくらしをおすそわけ」の豆腐とおから料理作りに参加してきました。

今回集まったのは島内外合わせて10数名のみなさんと、賑やかな雰囲気の中で始めました。

お豆腐以外のメニューはおからのサラダ、ひじきの混ぜご飯、豚汁、おからのコロッケ、おからドーナツと日本人に生まれてよかった！と言いたくなる品々です。私はほぼ毎日と言っていいほど口にするお豆腐ですが、一から作り方を学ぶのは初めてのことです。途中の過程でできるしぼりたての豆乳の大豆の香りと味わい深さは市販の豆乳とは大違いであること、昔はお豆腐を固める際に出る余分な水分で洗顔をしていたことなど、新たな発見や余すことな

地域おこし協力隊員 山崎千寿の  
**しましまタイムズ**  
SHIMASHIMA TIMES

14

周防大島町定住促進協議会  
☎0820(74)1007



▲左からひじきご飯、おからサラダ、おからコロッケ、豆腐、豚汁

く大豆を活用する日本人の知恵に感心することばかりでした。また、驚いたのはみなさんの手際の良さです。調理はもちろんのこと後片付けもあつという間に終わり、気付けば調理台も流しもピカピカになっていました。みんなで調理してみんなで食べる美味しさも一層増し、心にも体にも栄養をたっぷり頂きました。

さて、次回の海そうじは4月7日(金)午後2時から三浦西の浜で行います。みなさんのご参加お待ちしております。